

第1章 調査概要

1.1 八代海北部海域の望ましい姿における港湾局調査の位置づけ

八代海北部海域の環境保全及び改善に向けた港湾局調査の位置づけは、保有する環境整備船「海輝」によるゴミ回収の効率的な運航をさらに推進するとともに、海域における漂流ゴミ等の問題を提議し、関係省庁ならびに関係機関とともに対策に向けた情報の共有化を図ることを目指すものである。

「八代海の望ましい姿」にも述べられているように、人間が環境に対して働きかける場合、「保全（自然・生態）」、「防災（安全）」、「利用（開発）」の3つが調和した対策を検討していかなければならない。

漂流ゴミ等の効率的な回収を通して、良好な漁場環境等の「保全」、円滑な漁業活動の推進等に係る「利用」、さらに船舶の航行安全と海域施設に対する被害の軽減等における「防災」を、より充実させようとするものである。

本調査では、既存資料の収集や現地調査により、浅海域の分布状況や海域利用状況を把握するとともに、地元関係者へアンケート調査を実施して、海域・海岸でのゴミの実態を把握し、関係省庁と連携しながら、環境整備船「海輝」による漂流ゴミ回収に関する方策を提案するものである。

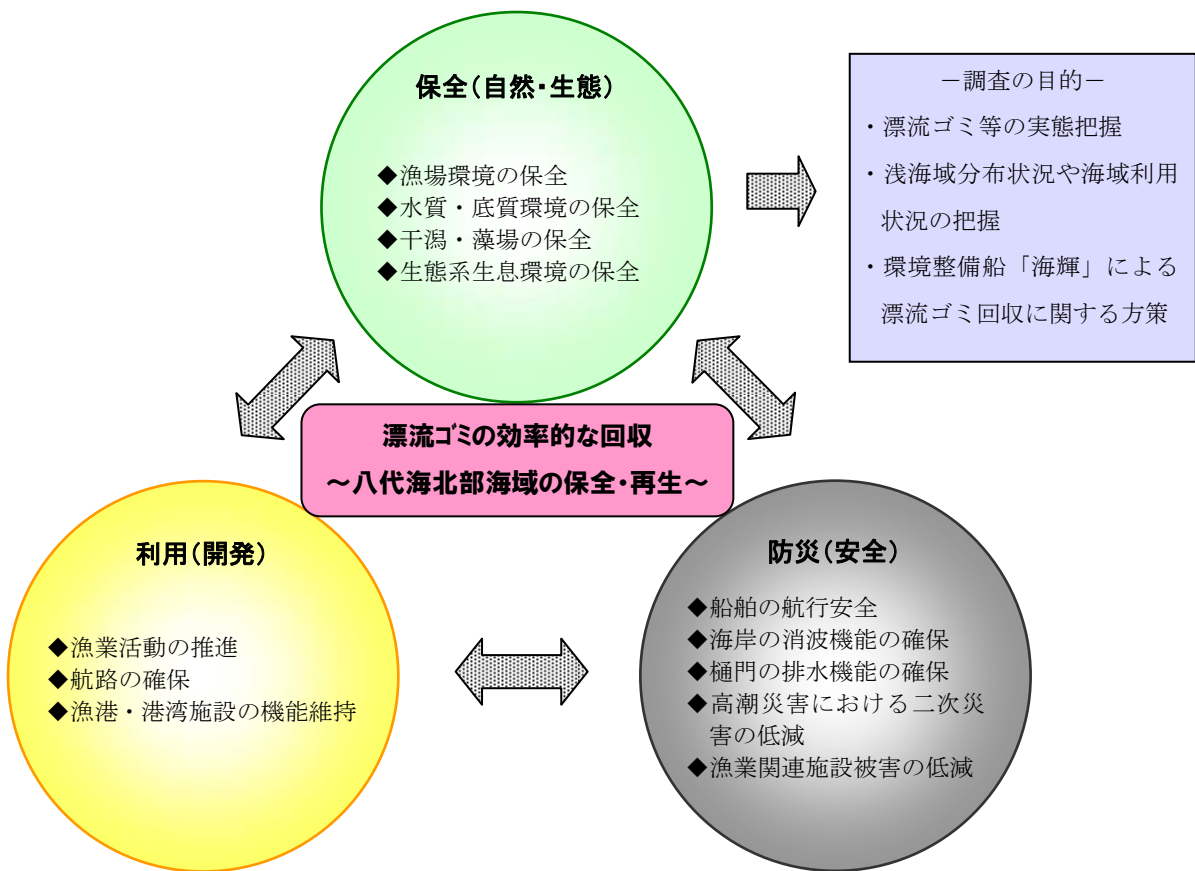


図 1.1 港湾局調査の位置づけ

1.2 調査の目的

八代海北部海域における漂流ゴミ等は、河口域での河川の流況や流下土砂、海域における潮流等を阻害し、浅海化・干潟化を助長するとともに、漁場環境や生物の生息環境への影響が懸念される。一方、こうした漂流ゴミ等対策の一環として、環境整備船「海輝」による海面清掃に取り組んでいるものの、八代海北部海域における浅海化・干潟化は回収作業の大きな弊害となっている。

本調査では、既往資料の収集・整理や地元関係者へのアンケート調査の実施により、本海域でのゴミ問題の実態や課題を明らかにするとともに、航空写真測量と深淺測量データとを重ね合わせ、浅海域の滞筋等、本海域の海底地形情報を把握することで、「海輝」による安全でかつ効率的な漂流ゴミ回収に関する方策を検討することを目的とする。

1.3 調査フロー

環境整備船「海輝」が八代海北部海域における漂流ゴミの効率的な回収を推進するにあたっては、漂流ゴミ等の実態を把握することに加え、浅海域における海底地形ならびに養殖施設をはじめ流入河川等や海域・海岸の管理状況を把握し、安全な航行と省庁や関係機関との連携を踏まえた対応策の検討を行う必要がある。

本調査では、以下の検討フローに従い調査結果をとりまとめたものである。

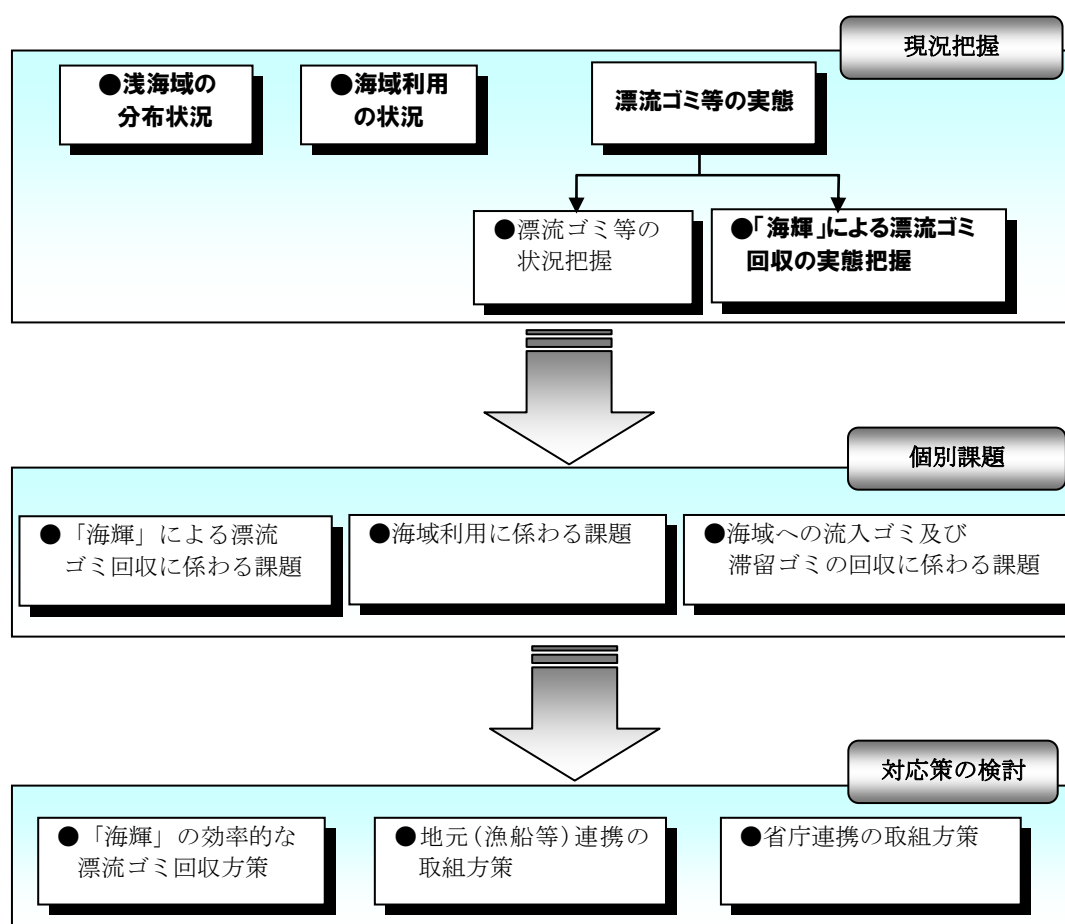


図 1.2 検討フロー